

九州病害虫研究会

第97回研究発表会

プログラム

2019年1月31日（木）

会場 ユウベルホテル

〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田3丁目10-1

TEL: 096-344-5600

発表会場および進行予定

講演15分（1鈴10分、2鈴12分） 質疑3分（終鈴15分）

虫害会場		病害会場
ユウベルホテル 2階 光の間 A（虫害1）	ユウベルホテル 2階 光の間 B（虫害2）	ユウベルホテル 3階 ザ・テラスルーム（病害）
8:55~9:00 事務連絡	8:55~9:00 事務連絡	9:25~9:30 事務連絡
9:00~11:30 No.1~10	9:00~11:45 No.23~33	9:30~11:45 No.1~9
昼休み（役員会（2F 富士の間 12:00~13:00））		
総会（3F ザ・テラスルーム 13:05~13:25）		
13:45~16:45 No.11~22		13:45~16:30 No.10~16
情報交換会（3F 光の間 B）		

九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

【講演にあたっての注意事項・その他】

- ・講演はWindows Microsoft PowerPoint 2000以上で作成したスライドを液晶プロジェクターで投影しながら行って頂きます。（パソコンは、予め会場に設置したものを我们用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。）
- ・講演ファイルは必ずCD-ROMに書き込んでお持ち下さい。
- ・USB メモリは使用できませんのでご注意ください。
- ・ファイルの入ったCD-ROMは、午前・午後の開始前までに会場係に直接届け、作動の可否をご確認下さい。発表用パソコンへのインストールは、病害・虫害各会場係が行います。
- ・ファイル名は、講演番号(半角 2 ケタ)+発表者氏名（例「03 九州太郎」）としてください。
- ・講演要旨は、本会ホームページ内に掲載しております。印刷してご持参下さい。

【九州病害虫研究会第 98 回秋季研究発表会の開催お知らせ】

第 98 回秋季研究発表会を下記のとおり開催します。

記

1. 日時 2019年11月6日(水) 9:00～17:00 (予定)

2. 会場 全労済ソレイユ
〒870-0035 大分市中央町4丁目2番5号
(TEL) 097-533-1121
会場ホームページ (<http://www.soleil.jp>)

詳細については後日、当会ホームページ (<http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>) にて掲載いたします。

虫害の部

第1会場

会場：ユーベルホテル本館2階 光の間 A

講演12分（1 鈴10分、2 鈴12分） 質疑3分（終鈴15分）

<午前の部>

8:55 事務連絡

- 1 9:00 オーキシン輸送阻害剤が与えるサツマイモネコブセンチュウの根への誘引と侵入への影響
○永瀬絢葉・吉賀豊司
(佐賀大農)
- 2 9:15 食性や寄生性の異なる線虫種間での低酸素耐性の比較
○杉田慶敬・吉賀豊司
(佐賀大農)
- 3 9:30 レンコンネモグリセンチュウに対する酢酸の効果
○沼田小百合・吉賀豊司
(佐賀大農)
- 4 9:45 ニンニクに感染するイモグサレセンチュウの宿主特異性
○林宜蓁・内川史子・吉賀豊司
(佐賀大農)
- 5 10:00 クレオメをおとり植物として防除した場合のダイズのカメムシ類の防除効果（第2報）
○本田善之・河村俊和・岩本哲弥
(山口県農林総技センター)
- 6 10:15 2018年のダイズ生育前期におけるオオタバコガによる被害
○善正二郎・稲田稔
(佐賀農技防セ)
- 7 10:30 2017年および2018年のダイズにおけるハスモンヨトウの発生ならびに各種薬剤に対する感受性
○原本すみれ・菖蒲信一郎・平田真紀子¹⁾
(佐賀農業セ・¹⁾ 佐賀県園芸課)
- 8 10:45 サーチライトトラップを用いたハスモンヨトウの分散侵入モニタリング
○大塚彰・徳田誠¹⁾・松村正哉²⁾
(革新工学セ・¹⁾ 佐賀大・²⁾ 九州沖縄農研)
- 9 11:00 ハスモンヨトウ幼虫の味覚受容機能の探索
○大塚悠河・龍田勝輔¹⁾
(佐大農学研究科生物資源科学専攻・¹⁾ 佐賀大学総合分析実験センター)

- 10 11:15 ハスモンヨトウにおける性比異常の原因因子の経口感染の可能性
○佐藤嘉紀・新谷喜紀・長峯啓佑
(南九州大学)
-

<昼休み>

役員会 (2F 富士の間 12:00~13:00)
総会 (3F ザ・テラスルーム 13:00~13:25)

<午後の部>

- 11 13:45 ハスモンヨトウに対するオオハサミムシの捕食量
○宮崎美樹・津田勝男・坂巻祥孝
(鹿児島大農)
- 12 14:00 新規ウンカ剤ピラキサルト™の各種ウンカ類への殺虫活性と防除効果
○阿部新太郎・大上恵¹⁾
(JA 全農営技セ・¹⁾ Corteva Agriscience™, Agriculture Division of DowDuPont™)
- 13 14:15 水稻のウンカ・ヨコバイ類に対する側条施薬の有効性
○古家 忠・行徳 裕
(熊本農研セ)
- 14 14:30 宮崎県における新ウンカ類飛来予測システムの実用性の検討
○黒木匠子・松浦明・大塚彰¹⁾・斎藤伸弘²⁾
(宮崎総農試・¹⁾農研機構・²⁾宮崎県西諸県農林振興局)
- 15 14:45 トビイロウンカ少発生年におけるウンカシヘンチュウの寄生状況～宮崎県都城市の事例
○吉田睦浩・木村貴志・日高圭将¹⁾・藤井真理¹⁾・野中隆志²⁾・白川陽一朗¹⁾
(農研機構九州沖縄農研・¹⁾宮崎県北諸県農林振興局・²⁾宮崎県中部農林振興局)
- 16 15:00 佐賀県のアスパラガスで2018年に発生したハダニ類の種判別および数種薬剤に対する感受性
○成富毅誌・衛藤友紀¹⁾・菖蒲信一郎
(佐賀農業セ・¹⁾佐賀果樹試)
- 17 15:15 ダイコンハムシの防除に有効な薬剤の検討
○竹原剛史・黒木修一
(宮崎総農試)
- 18 15:30 チョウ目昆虫における熱処理による体色変化現象の保存性と適応的意義
○長峯啓佑・永田涼花・新谷喜紀
(南九州大学)
- 19 15:45 セスジズメの幼虫における終齢になるための閾値体重
○永田涼花・根本優也・新谷喜紀・長峯啓佑
(南九州大学)

- 20 16:00 オリーブおよびネズミモチで飼育したオリーブアナアキゾウムシの産卵消長
○中野遥香・松田浩輝・徳田 誠
(佐賀大農)
- 21 16:15 鹿児島県の果樹カメムシ類の発生予察における球果量調査の評価
○関田俊治
(鹿児島県農業開発総合センター)
- 22 16:30 夏季の高温がチャバネアオカメムシの生育に与える影響
○齊藤紀子・足立龍弥・手柴真弓
(福岡農林試)

第2会場

会場：ユーベルホテル本館2階 光の間 B

講演12分（1 鈴10分、2 鈴12分） 質疑3分（終鈴15分）

<午前の部>

8:55 事務連絡

-
- 23 9:00 光反射シートがスナップエンドウのウラナミシジミの産卵数と卵寄生蜂 *Trichogramma* の寄生率に与える影響
○水谷信夫・田中彩友美・北村登史雄・安達修平・富高保弘
（九州沖縄農研）
- 24 9:15 輸出相手国の残留農薬基準値に対応したイチゴの IPM 防除体系の検討
○永石 久美子・寺本 健・植松 綾子¹⁾・吉村 友加里
（長崎農技セ・¹⁾長崎県北振興局）
- 25 9:30 暖地二期作バレイショ栽培圃場でのインセクタリープラントを活用した IPM 体系の検討
○福吉賢三（長崎農技セ）
- 26 9:45 Multiplex RT-PCR 法によるタバココナジラミ 1 個体からのトマト黄化葉巻ウイルスとトマト退緑ウイルスの同時検出
○田中彩友美・富高保弘・北村登史雄・大西純¹⁾
（農研機構九州沖縄農研・¹⁾農研機構中央農研）
- 27 10:00 チャノホコリダニに対するスワルスキーカブリダニおよびリモニカスカブリダニの放飼効果の相違ならびにその要因について
○柿元一樹・山村光司¹⁾・山中 聡²⁾
（鹿児島農総セ・¹⁾農環研・²⁾アリストライフサイエンス(株)）
- 28 10:15 野生型と飛ばないナミテントウの耐寒性の比較
○高橋慎弥・木下智章・徳田 誠（
佐賀大農）
- 29 10:30 露地ナス圃場のニジュウヤホシテントウの天敵としての造網性クモ類
○清水祐里・長谷川雪乃・津田勝男・坂巻祥孝
（鹿児島大農）
- 30 10:45 アザミウマタマゴバチ類(*Megaphragma* sp.)の発消長を左右する要因
○榮村翔矢・津田勝男・坂巻祥孝・鹿子木聡¹⁾・福田 健¹⁾
（鹿児島大学農・¹⁾鹿児島農総セ茶業部）
- 31 11:00 露地カンキツにおけるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク推定に基づく追加防除による被害軽減技術
○衛藤友紀・白石祥子・近藤知弥・口本文孝¹⁾・根角博久²⁾・柴田昇平²⁾
（佐賀果樹試・¹⁾佐賀農試セ・²⁾農研機構九州沖縄農研）

- 32 11:15 佐賀県の施設カンキツから採集したミカンキイロアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果
○白石祥子・衛藤友紀・近藤知弥
(佐賀果樹試)
- 33 11:30 サフオイル乳剤の地上部浸漬処理によるイチゴのナミハダニ防除と体系防除としての可能性
○上村香菜子・柳田裕紹¹⁾・和氣坂成一²⁾・松岡拓実²⁾
(福岡農林試・¹⁾福岡県農林水産部園芸振興課・²⁾OAT アグリオ(株))
-

＜昼休み＞

役員会 (2F 富士の間 12:00～13:00)
総会 (3F ザ・テラスルーム 13:00～13:25)

病害の部

会場：ユーベルホテル本館 3 階 ザ・テラスルーム

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分） 質疑 3 分（終鈴 15 分）

<午前の部>

9 : 25 事務連絡

- 1 9 : 30 佐賀県におけるキウイフルーツかいよう病 (biovar3) の発生状況
○前田貢輝・野口真弓¹⁾・白石祥子²⁾・ロ木文孝³⁾
(佐賀農技防セ・¹⁾西松浦普及・²⁾佐賀果樹試・³⁾佐賀農業セ)
- 2 9 : 45 糖含有珪藻土を使用した夏季土壌還元消毒のトマト・ミニトマト青枯病に対する防除効果 (第 1 報)
○江口武志・山崎尚美・古家 忠・彌富道男¹⁾
(熊本農研セ・¹⁾熊本県北玉名地域振興局)
- 3 10 : 00 ユニバーサルプライマーを用いた RT-PCR による国内未発生トスポウウイルスの検出
奥田充
(中央農研)
- 4 10 : 15 トマト黄化葉巻病耐病性品種の促成栽培におけるトマト黄化病の発生実態および薬剤防除体系の効果
○坂本幸栄子・山崎尚美・江口武志・森山美穂¹⁾
(熊本農研セ・¹⁾熊本県北阿蘇地域振興局)
- 5 10 : 30 現場で活用できる技術を使用したホオズキにおけるウイルス被害の把握とウイルス対策の普及
○早日早貴¹⁾³⁾・臼井真奈美²⁾・黒木修一²⁾・櫛間義幸²⁾・竹下稔³⁾
(¹⁾宮崎県西臼杵支庁・²⁾宮崎総農試・³⁾宮崎農院)
- 6 10 : 45 苗床および本圃で感染したタマネギベと病の一次伝染株の発生消長
○渡邊幸子・菖蒲信一郎
(佐賀農業セ)
- 7 11 : 00 マルチ栽培によるタマネギベと病一次感染発病株の発生抑制と収量向上
正司和之¹⁾・○田代暢哉・浦田貴子・中山伸一・宮崎尚子・浦川綾子・松尾洋一²⁾・田中義樹
(佐賀上場営農セ・¹⁾現：佐賀農業セ・²⁾現：佐賀農大)
- 8 11 : 15 2018 年の佐賀県におけるタマネギベと病の二次伝染時期の推定
○菖蒲信一郎・渡邊幸子
(佐賀農業セ)
- 9 11 : 30 我国における *Phomopsis destruens* によるサツマイモ基腐病 (新称) の発生
前田藍¹⁾・河村太²⁾・○河野伸二³⁾・大城篤⁴⁾・岡田吉弘⁵⁾
(¹⁾沖縄南部普セ・²⁾沖縄防技セ・³⁾沖縄農研セ・⁴⁾八重山振興セ・⁵⁾九沖農研セ)

＜昼休み＞

役員会（2F 富士の間 12:00～13:00）

総会（3F ザ・テラスルーム 13:00～13:25）

- 10 13:45 高密度育苗を用いた水稻栽培におけるいもち病に対する箱施用剤の防除効果の検討

下大園佳由・黒木修一
（宮崎総農試）

- 11 14:00 イネ稲こうじ病に関する省力的防除方法の検討

○鈴木智範・岡本潤・佐藤通浩
（大分農林水産研指農業）

- 12 14:15 越夏程度を組み入れたイチゴうどんこ病の発生予察

稲田稔・古田明子
（佐賀農技防セ）

- 13 14:30 トルコギョウ斑点病発生ほ場におけるカーバムナトリウム塩液剤の罹病残渣および資材に対する殺菌効果

○成山秀樹・石井貴明¹⁾・田中千夏²⁾・興花織³⁾
（福岡農林総試・¹⁾福岡県庁・²⁾田川普及指導セ・³⁾久留米普及指導セ）

- 14 14:45 アスパラガス半促成長期どり栽培における夏季追加立茎が茎枯病の発病に及ぼす影響と効果的な防除体系

○中村吉秀・江頭桃子・難波信行
（長崎農技セ）

- 15 15:00 採種条件の異なる種いものジャガイモそうか病種いも伝染リスクの調査

○菅 康弘
（長崎農技セ）

- 16 15:15 サトイモの種いも生産を目的とした湛水畝立て栽培における病虫害管理技術

○湯田達也・西 八束・尾松直志¹⁾・池澤和広
（鹿児島農総セ・¹⁾鹿児島大隅振興局）